

## 令和元年度第3回河川ガイドツアー〔巴川編〕を実施しました！

- [日 時] 令和元年12月22日(日曜日) 8時45分から16時まで  
[場 所] 集合：霞ヶ浦環境科学センター 巴川上流：源流・あたご天狗の森(笠間市泉)  
関連史跡：小幡城跡(茨城町小幡) 関連史跡：勘十郎堀跡(茨城町城之内)  
昼食・休憩：空のえき「そ・ら・ら」(小美玉市山野)  
巴川中流：そめかわはし(小美玉市上合)  
巴川下流：河口・銚田市環境学習施設エコハウス(銚田市安塚)  
[参加者] 33人(大人：20人, 子ども：13人)  
[講 師] 霞ヶ浦環境科学センター 細田係長, 腰塚嘱託  
あたご天狗の森 大山先生

身近な河川を上流・中流・下流と巡り、水質や生き物の調査等の体験学習と、自然科学、歴史、地理等の話を通して、河川を様々な側面から総合的に捉え、自然の素晴らしさや恵みを感じ、環境に配慮した行動を考えるための河川ガイドツアーを、霞ヶ浦の中でも北浦に流れ込んでいる「巴川」で実施しました。

霞ヶ浦環境科学センターに集合し、バスで笠間市あたご天狗の森の源流から銚田市の河口まで巡りました。バスの中では講師から、巴川が笠間市、小美玉市を経て銚田市で北浦に注いでいること、茨城・鹿島・行方の三つの郡を流れるため「三つ巴」の意味で巴川と呼ばれていること等、巴川に関する話を聞きました。



源流のあたご天狗の森では、現地案内人の大山先生から愛宕山と巴川についての話を聞き、源流付近を案内していただきました。あたご天狗の森の駐車場は分水嶺になっていて、バケツの水を撒くと涸沼川方向と巴川方向に水が別れて流れることを体験し、展望デッキからは巴川が流れている位置を確認することができました。



また、源流が湧き出ている巴川源流橋の上で、水質検査体験としてCODのパックテストと透視度測定の体験を行いました。



関連史跡の小幡城跡（茨城町小幡）では、城跡の見学をしました。土塁や空堀がほぼ完全な姿で残っている城は全国的にも少なく貴重であり、広いため少し駆け足となりましたが、本丸まで歩きながら見学することができました。



続いての関連史跡である勘十郎堀跡（茨城町城之内）では、堀跡を橋の上から見学しました。1707年に松波勘十郎が巴川に繋がる運河の工事を開始しましたが、重労働と財政難から一揆に発展して未完成のまま終わってしまった跡であることを学びました。



昼食・休憩を空のえき「そ・ら・ら」でとった後、巴川の中流のそめかわはし（小美玉市上合）を訪れ、中流の川幅や水の流れの観察、水質検査等の体験をしました。源流から比べると川幅がだいぶ広がり、豊かな流れを感じることができました。冬場のためか透視度やCODが源流と変わらない、もしくは少し良いという結果で、上流から下流に行くほど水質が悪くなるという想像とは違う場合もあるということに驚きました。



最後に河口の北浦・銚田市環境学習施設エコハウス（銚田市安塚）を訪れ、河口の観察と水質検査、透視度測定等の体験行い、双眼鏡で野鳥の観察をしました。

源流から河口までを一日で巡り、川幅や周辺風景の変化を観察することで、水の繋がりを感ずるとともに、関連史跡の見学により、川の流域の歴史や文化にも触れることができました。



参加者の皆様からは、「河川に行く機会があまりなかったので触れ合えてよかった」、「思っていたより川、湖がきれいだったことに驚き!」、「愛宕山の源から湧き出た水が川になっていくのが良くわかり感動です」、「生き物がたくさんいる川にしたいです」、「CODや透視度の実験、はじめてやりました!」、「恋瀬川の源流もお願いします」といった川に対する感想や御意見をいただきました。

また、「講師がとてもよかった」、「話がおもしろい」、「ボランティアの協力がすばらしく、事前準備が充分されていたことがわかった」というスタッフやイベント運営に対するお褒めの言葉もいただきました。ありがとうございます。

皆様からの御意見を参考に、これからも楽しく体験しながら学ぶことができるイベントを企画しますので、ぜひ御参加ください。

御参加いただいた皆様、御協力いただいた皆様、ありがとうございました。